



CAP(まちなか再生総合プロジェクト)

人口減少・少子高齢化に対応した新しいまちづくり

苫小牧市 総合政策部 まちづくり推進室
まちづくり推進課 (まちなか再生主幹)



なぜCAPを策定したのか？

○JR苫小牧駅を中心に中心市街地の活性化を実施してきましたが・・・



○人口増加、郊外開発による市街地の拡散
○モータリゼーションによる大規模集客施設の郊外立地



○多くの市民の生活圏の中心が郊外へ移転



○中心市街地の商業の衰退、人口減少

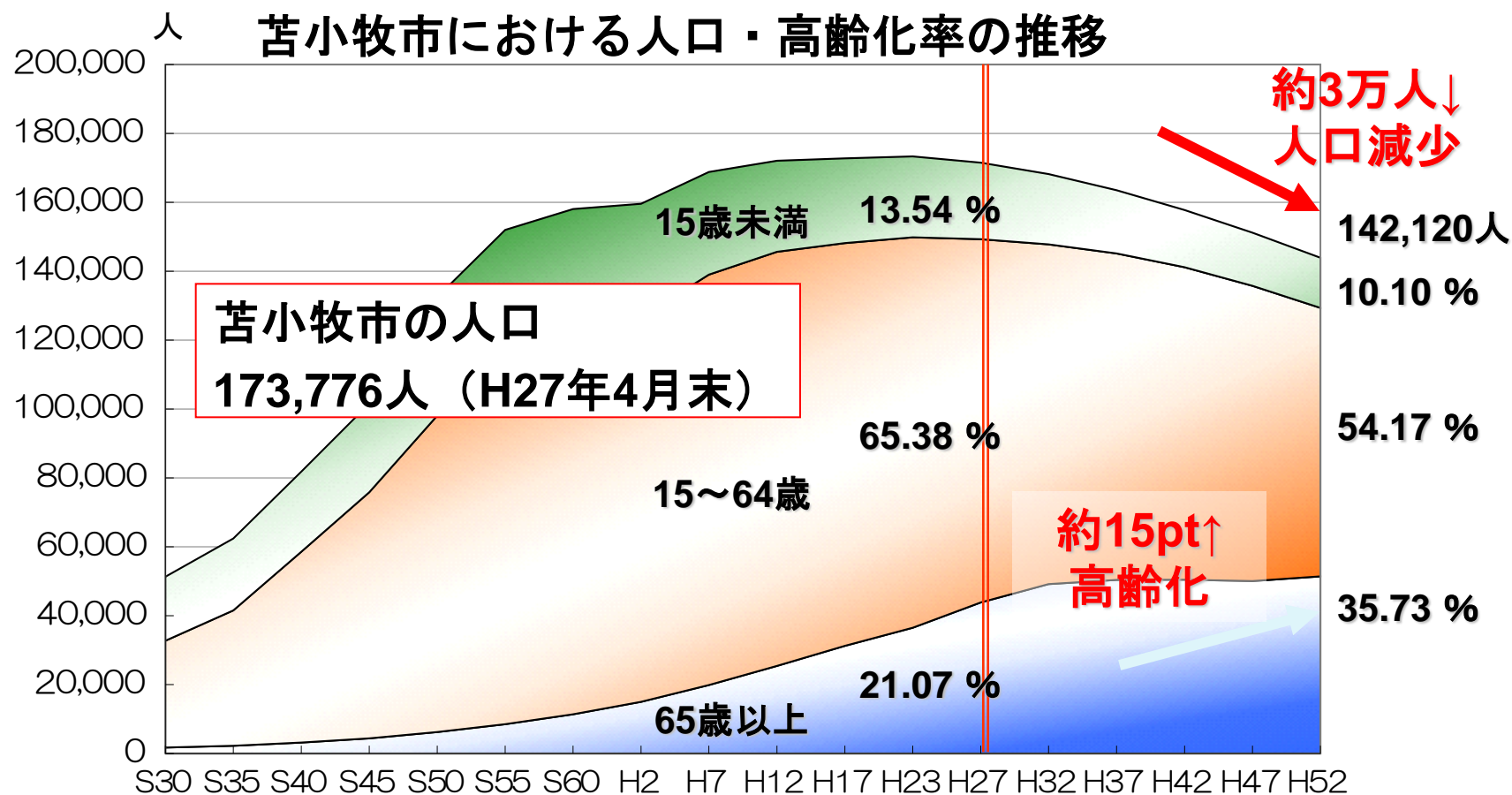
経済・社会情勢の変化による影響

- ①高齢化による消費の落ち込み
- ②経済成長の停滞
- ③郊外の住宅開発
- ④モータリゼーションと郊外型大規模店舗の出現
- ⑤消費者ニーズの多様化、多様な販売形態の出現



まちなか商業の衰退、まちなかの魅力の低下、人口減

人口減少・超高齢社会の到来



出典：「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所, 2013.3.27) 及び国勢調査結果

人口減少・超高齢化の影響

- ① 市民サービスの低下(税収、職員、施設等の減による)
- ② 都市維持管理コスト(公共施設・道路・公園・上下水道等)の高止まり
- ③ 社会保障関係(医療・介護)の歳出増大
- ④ 生活の移動に不安を抱える高齢者の増加

対応できるのは・・・

多様な都市機能がコンパクトに集積した歩いて暮らせるまち

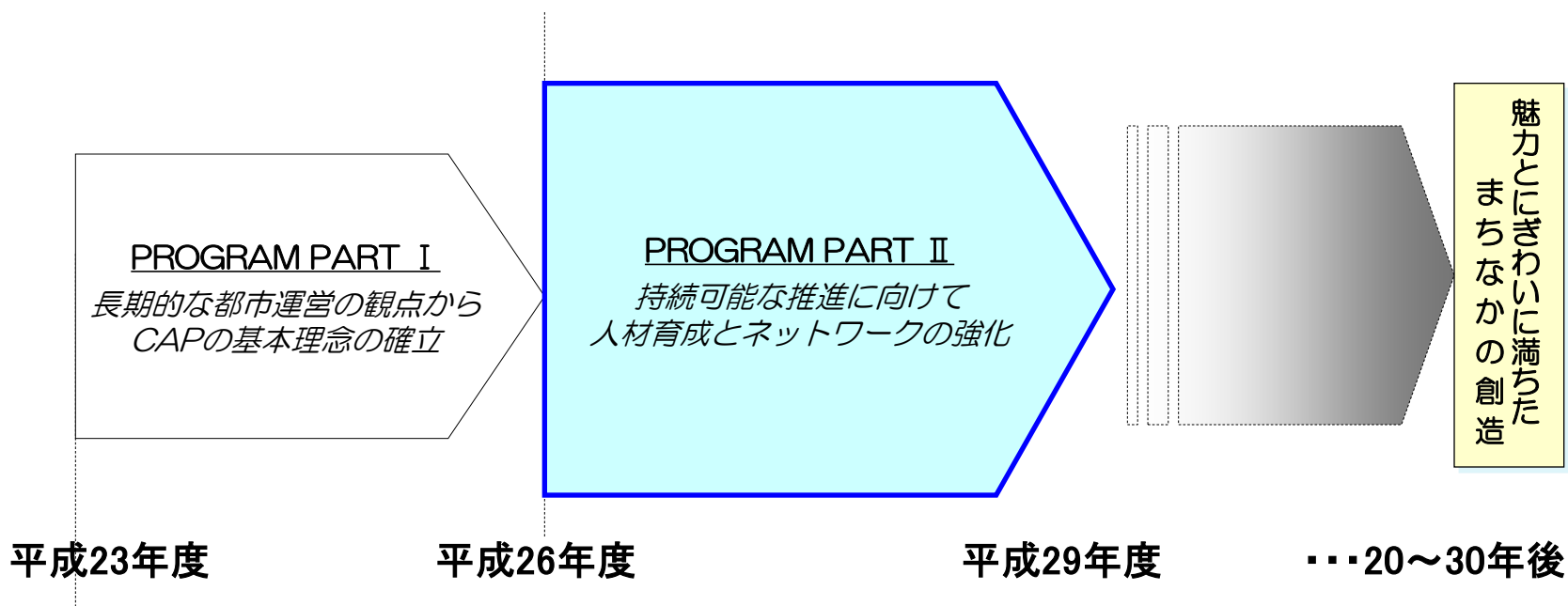
持続可能なまちづくり＝まちなか再生へ

人口減少、超高齢社会に対応できる持続可能なまちづくり＝**まちなか再生**

まちなか再生の利点

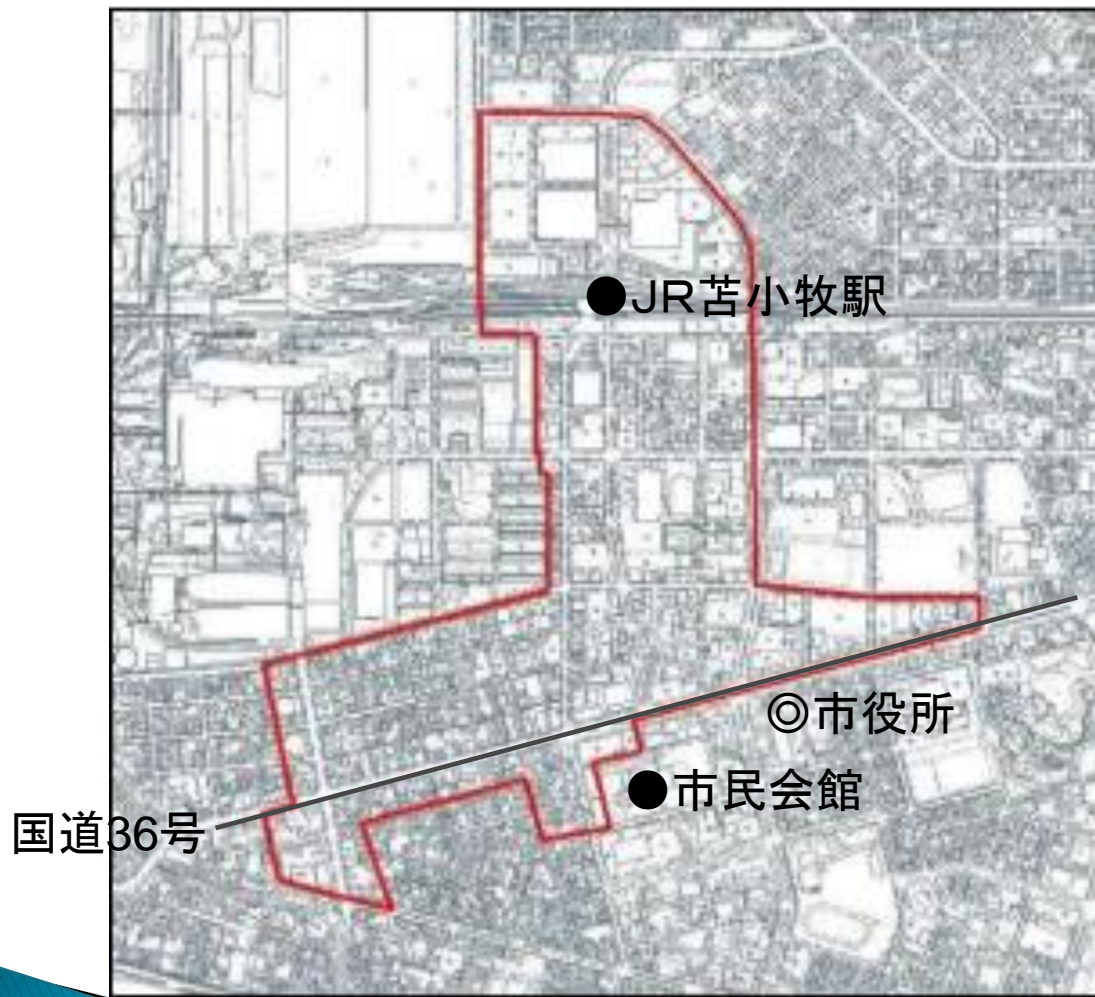
- ①投資の効率性 道路・上下水道・公園等都市機能基盤整備済み
- ②都市機能の集約 住居、商業施設、公共・福祉施設、医療施設等の集積
- ③交流の拠点 JR苫小牧駅・苫小牧駅前バスターミナルの結節点

まちなか再生総合プロジェクトの進め方



人にやさしいまち 誇りと愛着が持てるまち 苦小牧！

CAPの対象エリア



CAPの基本方針

基本方針1 にぎわいの創出

① 地域ブランド戦略による地域活性化

地域の独自性の発揮で「**選ばれるまち**」を目指し、
人口減少、高齢化による地域経済の衰退に歯止めをかける

>> 市外から集客し、消費を拡大(交流人口の拡大)



② 商業の活性化

まちなかの魅力を創造する

>> 郊外型大型店、ロードサイド店等との差別化



基本方針2 公共交通の利便性向上

将来の人口減少・超高齢社会に対応した新たな公共交通体系を構築する。

特にまちなかにおいては、車に依存せずに暮らせる生活空間として公共交通の利便性を向上させる。



基本方針3 まちなか居住の推進

利便性の高いまちなかにおける良質な住環境の確保



CAPの主な事業

1 東胆振地域ブランド戦略 H23年度～

東胆振地域ブランド創造協議会（H22年12月設立）

- ① 東胆振の魅力発信事業
- ② 東胆振独自の「食文化」の発見・開発・発信事業
- ③ 東胆振の魅力加速事業



2 まちなかグルメ推進事業 H23年度～

まちなかの新たな魅力としてPRLし、交流人口の拡大を目指す

ホッキライスバーガー、とまチョップサイダー&ガラナ、東胆振ランチ、苫小牧ホッキ焼きそば



3 COCOTOMA(まちなか交流センター)

まちなかの新たな交流拠点

H26年11月1日開設

ラウンジ、カフェ、スタジオ

- ・読書(雑誌等を主体)、休憩、自習室としての利用等
- ・東胆振の地域食材等のPR、定期的なマルシェの開催
- ・研修、サークル等の利用によるにぎわい創出

観光案内所 ・地域情報の発信、苫小牧の名産品等の販売



4 まちなか交流館連携事業

H23年12月開設



苫小牧信用金庫が地域貢献の一環として建設。市との連携事業。

>> 多くの人々がふれあうコミュニティステーション

■ 主な機能: 足湯・手湯、特産品展示、ギャラリー等



5 苫小牧駅前周辺再整備事業

駅前広場



駐車状況や交通動線、景観上の観点から様々な課題

駅前バスターミナル



老朽化、耐震化への対応等の検討



再整備に関する構想を一体的に検討

民間の投資等を誘導

6 苫小牧市公式キャラクターPR事業

H23年度～

ご当地キャラクターを使ってまちのPR・活性化を目指すプロジェクト



7 まちなかイベント H24年度～

新たなまちなかのにぎわい創出のためのイベント



商業観光課、民間団体、商店街等と連携して実施

8 まちゼミ H24年度～

愛知県岡崎市発祥の少人数制の講座

= 魅力ある個店づくり

第1回 **北海道初**「とまこまい得する街のゼミナール」開催

平成25年2月23～3月20日

15店舗(30講座)参加

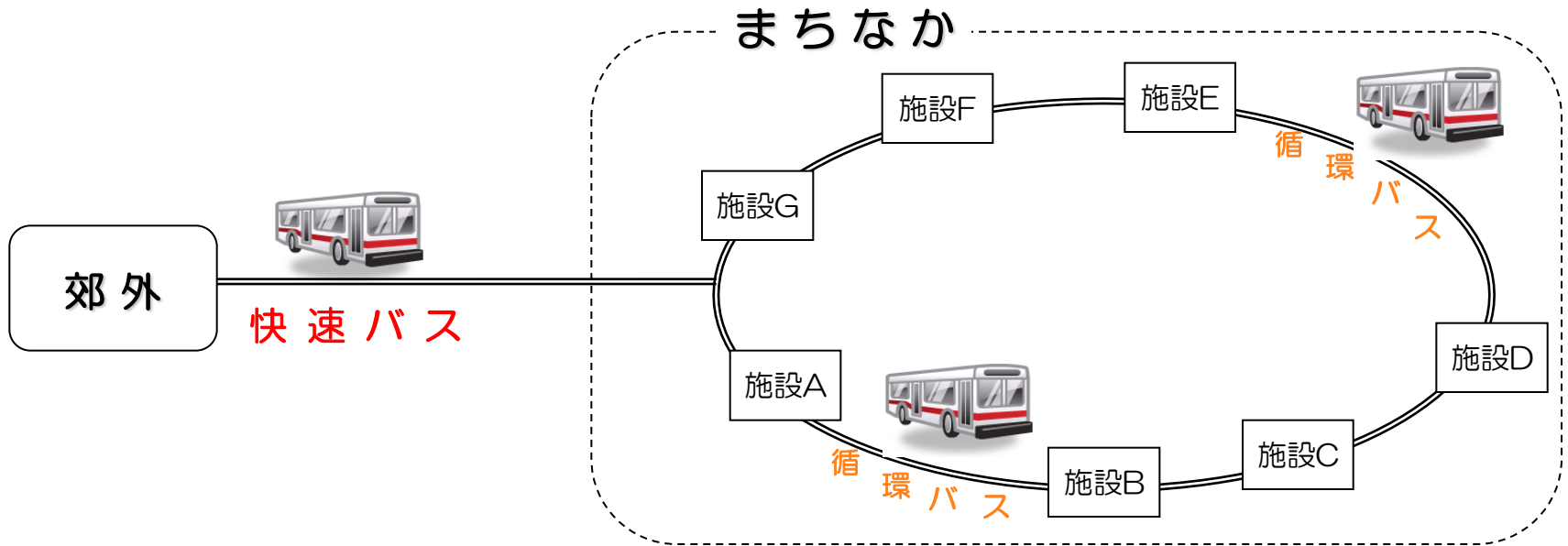
第2回 平成25年10月5日～11月6日

19店舗(29講座)参加



9 循環バス・快速バス

H27年度～



将来の市民生活のセーフティネット

歩いて暮らせるまちづくり

循環バスは平成27年4月から運行開始・・・市立病院港町循環線
右回り、左回り1日各5便。料金は一律210円。

10 まちなか居住に関する事業

① 市営住宅まちなか移転事業

平成25年度完了（H26年4月入居開始）

>> 日新団地建替事業において、約120戸をまちなかへ移転



若草団地市営住宅
2LDK, 2DKを中心に1フロア12戸、10階建

② まちなか居住支援事業

H26年度～

良質な住宅の供給及びストックの形成

>> 国の補助制度を活用して民間共同住宅の建設支援を行う

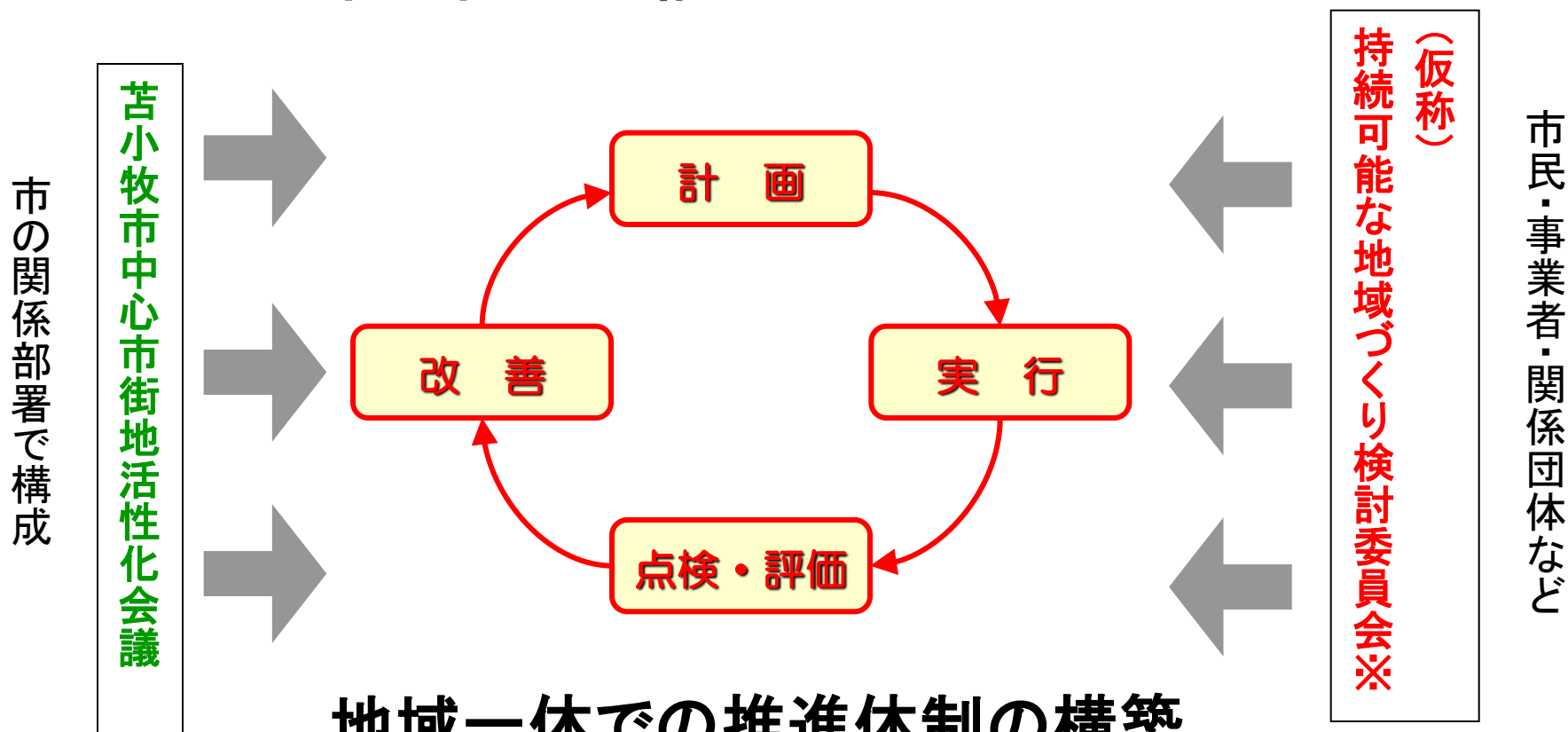
対象者 市内法人

対象住宅 CAP対象エリアに新築する賃貸住宅

補助額 1戸当たり100万円

認定条件 省エネ・高齢者配慮等一定の対策、1棟当たり6戸以上
住戸の床面積は、58.2平方メートル以上・・・等

11 CAP推進体制の構築



※現在のまちなかクリエイティブラボ(まちラボ)

…H27年6月25日発足